

令和4年度事業報告

I 運動推進事業

1 海洋・海事思想の普及

(1) 美ら海体験教室事業

一般財団法人近藤記念海事財団との共催により、11月5日(土)6日(日)に沖縄県宮古島市において「第15回美ら海体験教室」を開催した。

沖縄本島以外の開催は初めてであったが、結団間もない宮古島海洋少年団の団長以下指導者が懸命に準備し、子供達が環境について学び、マリンスポーツを体験する機会を設けた。

(2) 我ら海の子展事業

一般財団法人サークルクラブ協会との共催により、船、海や船で働く人、海の環境保全などをテーマにした絵画コンクール「第50回我ら海の子展」を実施した。

国土交通大臣賞はじめ日本海洋少年団連盟会長賞等を授与した。

なお、例年開催していた表彰式は新型コロナウイルスの影響により3年連続中止した。

作品は銀座ギャラリー、国土交通省、アクアマリンふくしま、琴平海洋博物館、アクアワールド茨城県大洗水族館、神戸海洋博物館にて展示を行った。

(3) 褒状山縣賞授与事業

一般財団法人山縣記念財団の協力により、褒状山縣賞授与式を3月24日(金)に開催し、男女2名ずつ4名の優秀な卒団者に表彰状及び徽章を会長から授与した。

表彰式後の海事研修は第三管区海上保安本部の協力を得て、羽田特殊救基地、羽田航空基地において、救難資機材、救難に従事する航空機等の見学を行った。

2 海洋少年団運動の広報

(1) コロナウイルスの影響で中止や縮小となっていた、「海フェスタ」始め全国各地での行事が徐々に開催されるようになったため、複数の団がブースを出展し、活動をPRするとともに、手旗信号等を披露した。

(2) 機関紙「海っ子」を発行した。

(3) ホームページ、Facebookにより情報発信を行った。

(4) 物を運ぶ船を取り上げた「海運カレンダー」を作製・配布し、団員の海事分野への興味の醸成、活動の活性化につなげるとともに、PRにも活用した。

3 海洋少年団運動の拡充／推進／強化・活性化

(1) 運動の拡充

- イ 日本海洋少年団連盟団会員の名簿管理を行い、正確な団会員の現状把握に努めた。会員証286枚を発行するとともに新入団員171名に助成を行った。
- ロ 新しく設立された浜名湖海洋少年団の設立助成を行った。
- ハ 海洋活動器材等の整備を進めた。
 - (イ) カヌー・SUP
佐伯、大田区、福岡各団
 - (ロ) カッター修繕等
四日市、大田区、南勢、横須賀各団
 - (ハ) カッターオール
宇部団
 - (ニ) 救命胴衣
船橋、横浜、南勢、小浜、舞鶴、大阪みなと、熊本火の国、千代田区、宇部、佐伯、石垣、酒田、目黒区各団
- 二 損害賠償責任保険に加入した。

(2) 運動の推進

- イ 地区連盟の活動助成
東北、関東、東京、中国、九州北部、沖縄各地区連盟
- ロ 指導者資格審査委員会を開催し、指導者33名を承認・登録した。

(3) 運動の強化・活性化

- イ 新団の結成を推進するとともに、結成後の強化のため連盟職員を静岡県（浜名湖）、沖縄県（糸満市、宮古島市、那覇市）に派遣した。
- ロ 日本連盟主催による上級指導者養成研修
11月26日(土)、27日(日)東京において、全国から25歳から70歳までの指導者15名が参加し実施した。
- ハ 地区連盟主催による指導者養成研修
東京、中部、九州北部、沖縄地区連盟が指導者養成研修を実施した。
- ニ 活動活性化のためのチャレンジ事業(別紙参照)に助成した。
- ホ 技術教本(入団と手旗信号編)を作成した。

(4) 新団の結成

- 浜名湖海洋少年団の設立が令和4年11月14日に承認され、令和5年1月28日(土)浜松市において結団式が行われた。

4 海洋環境教育・地域貢献の推進

(1) 環境教育事業

沖縄県の宮古島団が開催した「美ら海体験教室」初め、全国の海洋少年団が定期的に海浜清掃等を行い、自然を大切に作る心やエコの精神などの涵養を図った。

(2) 青い羽根募金活動

公益社団法人日本水難救済会の実施する「青い羽根」募金運動に協力した。

II 全国大会事業

- 1 第55回全国大会を令和4年8月に開催するべく準備してきたが、新型コロナウイルス感染症の新規感染者数が爆発的に増加したため、大会役員会の判断で中止した。

- 2 同大会において実施している山縣賞、福山賞の表彰が実施できなかったため、会長代理の職員を現地に赴かせて4件の表彰状を伝達した。(山縣賞：千葉新宿海洋少年団及び千葉北部海洋少年団、福原賞：横須賀海洋少年団、酒田海洋少年団、浜田海洋少年団)
- 3 大会主管団体の負担が大きすぎる、競技を見直してほしい等の要望を踏まえ、大会役員会において継続可能な大会の在り方を検討し、次回大会に大会開催に繋げる。
これまでに、3回役員会のメンバーのうち実務者が集まり、全国大会の在り方を検討するとともに、検討結果を踏まえ全国の団に対して、2回のアンケートで意見聴取を行った。

III 国際交流事業

- 1 国際海洋少年団協会(ISCA)年次総会
年次総会が米国主催により令和4年10月下旬ワシントンで開催されたが、新型コロナウイルス感染症の影響で参加を見合わせた。
- 2 国際委員会の開催
令和5年2月18日(土)国際委員会を開催した。
- 3 海洋少年団員の海外派遣
新型コロナウイルスの影響で海外からの招請はなかった。

IV 需品事業

- 制服、制帽及び徽章類を作成して販売した。
コロナ禍から回復傾向にある中、各団の活動が活発化したことから、落ち込んでいた売り上げがコロナ禍前に戻りつつある。

2022年度チャレンジ事業一覧表

団	事業概要	金額	目的等
佐世保海洋少年団	手旗等体験、活動の紹介・説明	86,767	体験会、P R、団員募集
	親子で段ボールピザ窯体験等		
	海洋少年団活動写真展	59,511	活動P R
宜野湾はごろも 海洋少年団	操船実習、海洋少年団活動を通じ 広報、交流、海浜清掃	225,780	遠征航海訓練、PR、交流
石垣海洋少年団	操船実習、海洋少年団活動を通じ 広報、交流、海浜清掃	150,857	遠征航海訓練、PR、交流
南勢海洋少年団	水中ドローンの見学、 活動の紹介・説明、岸壁清掃	53,312	体験会、P R、団員募集
佐伯海洋少年団	カヌー体験、活動パネル展	14,936	体験会、P R、団員募集
合計		591,163	